

符号理論家のための量子削除訂正符号入門

野崎 隆之^{1,2} 萩原学³

¹ 山口大学 大学院創成科学研究科 理学系学域

² 山口大学 時間学研究所

³ 千葉大学大学院理学研究院

電子情報通信学会ソサイエティ大会

2024/9/12

§1. はじめに (講演者 (野崎) の思い)

講演者 (野崎) は古典符号理論家

§1. はじめに (講演者 (野崎) の思い)

講演者 (野崎) は古典符号理論家

- 量子符号は最近流行っている

§1. はじめに (講演者 (野崎) の思い)

講演者 (野崎) は古典符号理論家

- 量子符号は最近流行っている
⇒ どうにかして参入したい!

§1. はじめに (講演者 (野崎) の思い)

講演者 (野崎) は古典符号理論家

- 量子符号は最近流行っている
⇒ どうにかして参入したい!
- 量子符号は取っ付きづらい

§1. はじめに (講演者 (野崎) の思い)

講演者 (野崎) は古典符号理論家

- 量子符号は最近流行っている
⇒ どうにかして参入したい！
- 量子符号は取っ付きづらい
⇒ (古典) 符号理論家に理解しやすい符号はないか？

§1. はじめに (講演者 (野崎) の思い)

講演者 (野崎) は古典符号理論家

- 量子符号は最近流行っている
⇒ どうにかして参入したい!
- 量子符号は取っ付きづらい
⇒ (古典) 符号理論家に理解しやすい符号はないか?

問い

(古典) 符号理論家にとって

- 参入しやすく
- 理解しやすい

量子符号はあるか?

§1. はじめに (量子削除訂正符号)

答え

ある！ 量子削除訂正符号.

§1. はじめに (量子削除訂正符号)

答え

ある！ 量子削除訂正符号。

量子削除訂正符号は...

- 2020 年に初めて構成された
⇒ 多くの研究課題が残っている！
- いくつかの量子削除符号は，古典符号の知識でほぼ理解できる

§1. はじめに (量子削除訂正符号)

答え

ある！ 量子削除訂正符号.

量子削除訂正符号は...

- 2020 年に初めて構成された
⇒ 多くの研究課題が残っている！
- いくつかの量子削除符号は、古典符号の知識でほぼ理解できる

今日のテーマ

古典符号の知識でほぼ理解できる

「量子 RS 符号に基づく量子削除訂正符号」 [H2023]
を紹介する

[H2023] M. Hagiwara, “Quantum deletion codes derived from quantum Reed-Solomon codes,”
arXiv preprint arXiv:2306.13399, 2023.

§1. はじめに (話の流れ)

- 1 はじめに
- 2 古典削除訂正符号の構成
 - 消失誤りと削除誤り
 - 線形符号
 - 削除ブロック検出法
 - 削除訂正符号
- 3 量子符号の準備
- 4 CSS 符号と量子 RS 符号
- 5 量子 RS 符号に基づく量子削除訂正符号
- 6 まとめ

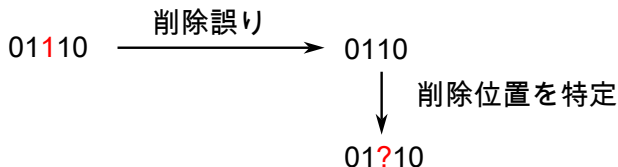
§2. (古典) 削除誤りと消失誤り

削除誤り

送信系列のシンボルが空列に変化する誤り

削除位置がわかれば，消失誤りとみなせる

⇒ (消失訂正符号) + (削除位置検出法) → (削除訂正符号)



§2. (古典) 線形符号

(n, k) 線形符号

- パリティ検査行列 $\mathbf{H} \in \mathbb{F}_q^{(n-k) \times n}$ で定義される符号

$$\{\mathbf{x} \in \mathbb{F}_q^n \mid \mathbf{H}\mathbf{x}^T = \mathbf{0}^T\}$$

- 最小距離 d の符号は $d - 1$ 個の消失を訂正可能

(n, k) リードソロモン (RS) 符号 C_{RS}

- 符号長 $n = q - 1$. $\alpha : \mathbb{F}_q$ の原始元.

$$\mathbf{H} = (\alpha^{(i-1)(j-1)})_{i,j} = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 & \cdots & 1 \\ 1 & \alpha & \alpha^2 & \cdots & \alpha^{n-1} \\ \vdots & \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ 1 & \alpha^{n-k-1} & \alpha^{2(n-k-1)} & \cdots & \alpha^{(n-1)(n-k-1)} \end{pmatrix}$$

- 最小距離 $d = n - k + 1$

§2. (古典) 2元展開による2元符号の構成

- \mathbb{F}_{2^m} の元は、長さ m の \mathbb{F}_2 上の系列 (ブロック) で表現可能
- \mathbb{F}_{2^m} 上の (n, k) RS 符号 C_{RS} は、
 \mathbb{F}_2 上の (nm, km) 符号 $B(C_{RS})$ に変換可能
- $B(C_{RS})$ は消失を含むブロックが $n - k$ 個以下なら訂正可能

原始多項式 $x^3 + x + 1$. 自己直交基底 $\{\alpha, \alpha^2, \alpha^4\}$ による変換

\mathbb{F}_{2^3}	0	1	α	α^2	α^3	α^4	α^5	α^6
\mathbb{F}_2^3	000	111	100	010	101	001	011	110

$0, \alpha^5, \alpha^3, \alpha^2, \alpha^6, \alpha, \alpha^4 \xrightarrow{\text{二元展開}} 000\ 011\ 101\ 010\ 100\ 100\ 001$

↓ 消失

$0, ?, \alpha^3, \alpha^2, ?, \alpha, \alpha^4 \longleftarrow 000\ ??1\ 101\ 010\ ?00\ 100\ 001$

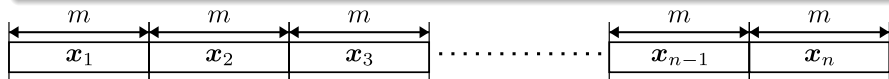
§2. (古典) 削除ブロック検出マーカ

仮定 : 二元系列に t 個以下の削除が生じる

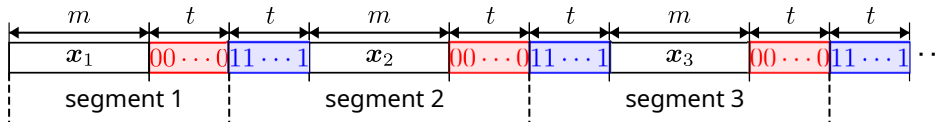
削除ブロック検出マーカ

各ブロックの末尾に以下のマーカを挿入

$$\underbrace{00 \cdots 0}_t \underbrace{11 \cdots 1}_t = \mathbf{0}^{(t)} \mathbf{1}^{(t)}$$



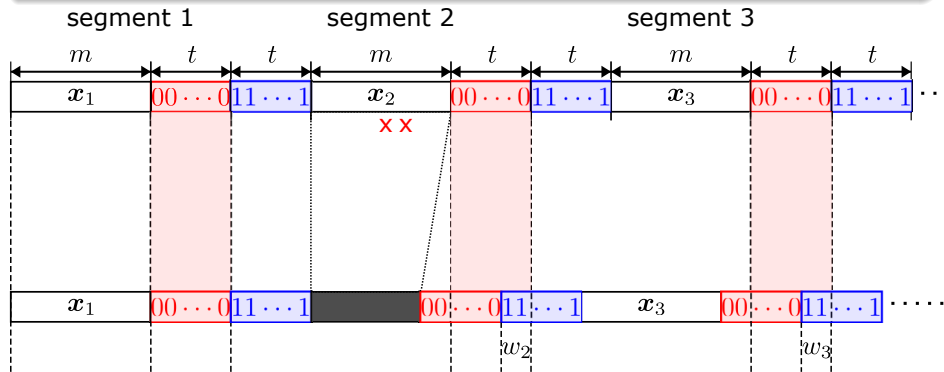
↓ マーカ挿入



§2. (古典) 削除ブロック検出法

$w_i :=$ (第 i セグメントに流入した 1 の個数)
= (第 i セグメントまでに生じた削除数)

$w_{i-1} < w_i \iff$ 第 i セグメントに削除が生じた



§2. (古典) RS 符号による t 削除訂正符号

t 削除訂正符号 C'

C : \mathbb{F}_{2^m} 上の $(n, n - t)$ RS 符号を二元展開した符号

$$C' := \{x_1 \mathbf{0}^{(t)} \mathbf{1}^{(t)} x_2 \mathbf{0}^{(t)} \mathbf{1}^{(t)} \cdots x_n \mathbf{0}^{(t)} \mathbf{1}^{(t)} \mid x_1 x_2 \cdots x_n \in C\}$$

復号法

- 1 w_1, w_2, \dots, w_n を計算する
- 2 $w_{i-1} = w_i$ ならば, x_i を抜き出し, $y_i = x_i$ とする.
 $w_{i-1} < w_i$ ならば, $y_i = ?$ とする.
- 3 $y_1 y_2 \cdots y_n$ に $\mathcal{B}(C_{RS})$ の消失訂正法を適用する

§3. 量子符号の準備 (表記)

ケット	$ 0\rangle = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix}$	$ 1\rangle = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix}$
ブラ	$\langle 0 = 0\rangle^\dagger = (1 \ 0)$	$\langle 1 = 1\rangle^\dagger = (0 \ 1)$

$\mathbf{x} = x_1 x_2 \cdots x_n \in \mathbb{F}_2^n$ に対して

$$|\mathbf{x}\rangle = |x_1 x_2 \cdots x_n\rangle = |x_1\rangle \otimes |x_2\rangle \otimes \cdots \otimes |x_n\rangle \in \mathbb{C}^{2^n}$$
$$\langle \mathbf{x}| = \langle x_1 x_2 \cdots x_n| = \langle x_1| \otimes \langle x_2| \otimes \cdots \otimes \langle x_n|$$

クロネッカー積： $\mathbf{A} = (a_{i,j}) \in \mathbb{C}^{n_1 \times m_1}$, $\mathbf{B} = \mathbb{C}^{n_2 \times m_2}$

$$\mathbf{A} \otimes \mathbf{B} = \begin{pmatrix} a_{1,1}\mathbf{B} & \cdots & a_{1,n_1}\mathbf{B} \\ \vdots & \ddots & \vdots \\ a_{m_1,1}\mathbf{B} & \cdots & a_{m_1,n_1}\mathbf{B} \end{pmatrix} \in \mathbb{C}^{n_1 n_2 \times m_1 m_2}$$

§3. 量子符号の準備 (量子ビット)

量子ビット : 次数 2 の密度行列

次数 d の密度行列 : \mathbb{C} 上の $d \times d$ 行列 ρ

- 対角和が 1 : $\text{tr}(\rho) = 1$
- 半正定値 : ρ の全ての固有値が 0 以上
- 自己随伴 (エルミート行列) : $\rho^\dagger = \rho$

純粋状態

ある $a|0\rangle + b|1\rangle$ ($a, b \in \mathbb{C}$, $|a|^2 + |b|^2 = 1$) によって

$$\rho = (a|0\rangle + b|1\rangle)(a|0\rangle + b|1\rangle)^\dagger$$

と表現できるとき, ρ を純粋状態と呼ぶ.

ρ のかわりに $a|0\rangle + b|1\rangle$ と書く.

(c.f.) 混合状態 : 純粋状態でないもの

§3. 量子符号の準備 (n 個の量子ビットからなる量子系)

次数 2^n の密度行列で表現される

- ρ が混合状態（および純粋状態）のとき

$$\rho = \sum_{\mathbf{x}, \mathbf{y} \in \mathbb{F}_2^n} \rho_{\mathbf{x}, \mathbf{y}} |\mathbf{x}\rangle \langle \mathbf{y}|, \quad (\rho_{\mathbf{x}, \mathbf{y}} \in \mathbb{C})$$

- ρ が純粋状態のとき

$$\sum_{\mathbf{x} \in \mathbb{F}_2^n} a_{\mathbf{x}} |\mathbf{x}\rangle$$

§3. 量子符号の準備 (射影測定)

- 測定値は確率的に得られる
- 測定前後で状態が変わる

射影測定：自己随伴行列の集合 $\{\mathbf{P}_0, \mathbf{P}_1, \dots\}$ で規定される

$$\mathbf{P}_i \mathbf{P}_j = \mathbf{P}_i \mathbb{I}[i = j], \quad \sum_i \mathbf{P}_i = \mathbf{I}$$

もとの状態が ρ の場合、

- 測定値 i を得る確率

$$\text{tr}(\mathbf{P}_i \rho)$$

- 測定後の状態

$$\frac{\mathbf{P}_i \rho \mathbf{P}_i^\dagger}{\text{tr}(\mathbf{P}_i \rho)}$$

§3. 量子符号の準備 (射影測定：例)

元の状態 $a_{00} |00\rangle + a_{01} |01\rangle + a_{10} |10\rangle + a_{11} |11\rangle$

射影測定 $\mathbf{P}_0 = |0\rangle \langle 0| \otimes \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$

$\mathbf{P}_1 = |1\rangle \langle 1| \otimes \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$

測定値	確率	測定後の状態
0	$ a_{00} ^2 + a_{01} ^2$	$\frac{a_{00} 00\rangle + a_{01} 01\rangle}{ a_{00} ^2 + a_{01} ^2}$
1	$ a_{10} ^2 + a_{11} ^2$	$\frac{a_{10} 10\rangle + a_{11} 11\rangle}{ a_{10} ^2 + a_{11} ^2}$

§4. CSS 符号と量子 RS 符号 (CSS 符号)

CSS 符号 $CSS(C_1, C_2)$

- 2つの古典2元線形符号 C_1, C_2 から構成される量子符号
(n, k_1) 線形符号 C_1 , (n, k_2) 線形符号 C_2 ($C_2 \subset C_1$)
- $\min\{d_{\min}(C_1), d_{\min}(C_2^\perp)\} - 1$ 個までの量子消失誤りを訂正可能

類別

$$(\mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2 \in C_1) \quad \mathbf{x}_1 \sim \mathbf{x}_2 \stackrel{\text{def}}{\iff} \mathbf{x}_1 - \mathbf{x}_2 \in C_2$$

C_1 / \sim の完全代表系: $\{\psi_1, \psi_2, \dots, \psi_K\}$ ($K = 2^{k_1 - k_2}$)

$$|\psi_i + C_2\rangle := \frac{1}{\sqrt{|C_2|}} \sum_{\mathbf{y} \in C_2} |\psi_i + \mathbf{y}\rangle$$

CSS 符号

$$\sum_{i=1}^K \alpha_i |\psi_i + C_2\rangle \quad (\alpha_i \in \mathbb{C}, \sum_{i=1}^K |\alpha_i|^2 = 1)$$

§4. CSS 符号と量子 RS 符号 (量子 RS 符号)

量子 RS 符号 $CSS(\mathcal{B}(C_1), \mathcal{B}(C_2))$

- 2つの古典 RS 符号から構成される量子符号
(n, k_1)RS 符号 C_1 , (n, k_2)RS 符号 C_2 ($C_2 \subset C_1$)
- 量子消失誤りを含むブロックが $\min\{n - k_1, k_2\}$ 以下ならば復号可能

構成法

- 1 C_1, C_2 を二元展開して $\mathcal{B}(C_1), \mathcal{B}(C_2)$ にする
- 2 $\mathcal{B}(C_1), \mathcal{B}(C_2)$ で CSS 符号をつくる

ブロック

符号化で得られた mn 個の量子ビットを, m 個ごとに分けて, n 個のブロックをつくる

§5. 量子 RS 符号に基づく量子削除訂正符号 (削除誤り)

(古典) i 番目のビットへの削除誤り

$$\text{(誤り前)} \quad \mathbf{x} = x_1 x_2 \dots x_{i-1} \underline{x_i} x_{i+1} \dots x_n$$

$$\text{(誤り後)} \quad \mathbf{x}_{-i} = x_1 x_2 \dots x_{i-1} x_{i+1} \dots x_n$$

(量子) i 番目の量子系への削除誤り

$$\text{(誤り前)} \quad \rho = \sum_{\mathbf{x}, \mathbf{y} \in \mathbb{F}_2^n} \rho_{\mathbf{x}, \mathbf{y}} |\mathbf{x}\rangle \langle \mathbf{y}|$$

$$\text{(誤り後)} \quad \text{Tr}_i(\rho) = \sum_{\mathbf{x}, \mathbf{y} \in \mathbb{F}_2^n} \rho_{\mathbf{x}, \mathbf{y}} \text{tr}(|x_i\rangle \langle y_i|) |\mathbf{x}_{-i}\rangle \langle \mathbf{y}_{-i}|$$

$$\text{tr}(|x\rangle \langle y|) = \begin{cases} 1 & (x = y) \\ 0 & (x \neq y) \end{cases}$$

§5. 量子RS符号に基づく量子削除訂正符号 (削除誤り)

$$\begin{aligned}\rho &= \frac{1}{2} \left(|00\rangle \langle 00| + |00\rangle \langle 11| \right. \\ &\quad \left. + |11\rangle \langle 00| + |11\rangle \langle 11| \right) \\ &= \frac{|00\rangle + |11\rangle}{\sqrt{2}} \frac{\langle 00| + \langle 11|}{\sqrt{2}} = \begin{pmatrix} 1/2 & 0 & 0 & 1/2 \\ 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 \\ 1/2 & 0 & 0 & 1/2 \end{pmatrix}\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}\text{Tr}_2(\rho) &= \frac{1}{2} \left(|0\rangle \langle 0| \text{tr}(|0\rangle \langle 0|) + |0\rangle \langle 1| \text{tr}(|0\rangle \langle 1|) \right. \\ &\quad \left. + |1\rangle \langle 0| \text{tr}(|1\rangle \langle 0|) + |1\rangle \langle 1| \text{tr}(|1\rangle \langle 1|) \right) \\ &= \frac{|0\rangle \langle 0| + |1\rangle \langle 1|}{2} = \begin{pmatrix} 1/2 & 0 \\ 0 & 1/2 \end{pmatrix}\end{aligned}$$

※ 純粋状態も混合状態になる場合がある

§5. 量子 RS 符号に基づく量子削除訂正符号 (符号化)

古典符号の場合 (復習)

$C_{\text{RS}} : (n, n - t)$ RS 符号

- 1 二元展開した RS 符号 $B(C_{\text{RS}})$ を用いて, 符号化

$$\mathbf{u} \mapsto \mathbf{x}$$

- 2 符号語を m ビットごとに区切り, n 個のブロックを作る

$$\mathbf{x} \rightarrow \mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2, \dots, \mathbf{x}_n$$

- 3 各ブロックの末尾に $0^{(t)}1^{(t)}$ をつける

$$\mathbf{x}_1, 0^{(t)}1^{(t)}, \mathbf{x}_2, 0^{(t)}1^{(t)}, \dots, \mathbf{x}_n, 0^{(t)}1^{(t)}$$

§5. 量子 RS 符号に基づく量子削除訂正符号 (符号化)

量子符号の場合

$C_1 : (n, n-t)$ RS 符号, $C_2 : (n, t)$ RS 符号 ($C_2 \subseteq C_1$)

- 量子 RS 符号 $\text{CSS}(\mathcal{B}(C_1), \mathcal{B}(C_2))$ を用いて, 符号化

$$\rho \mapsto \sigma$$

- 量子系を m 個ごとに区切り, n 個のブロックを作る

$$\sigma \rightarrow S_1, S_2, \dots, S_n$$

- 各ブロックの末尾に $\sigma^{t|l} := |0^{(t)}\rangle \langle 0^{(t)}| \otimes |1^{(t)}\rangle \langle 1^{(t)}|$ をつける

$$S_1, \sigma^{t|l}, S_2, \sigma^{t|l}, \dots, S_n, \sigma^{t|l}$$

§5. 量子RS符号に基づく量子削除訂正符号(復号)

量子符号の場合

$\tau' = q_1, q_2, \dots, q_{n'}$: 削除後の量子系

- 1 元々 $|0^{(t)}\rangle \langle 0^{(t)}|$ があつた位置に対応する $q_{\alpha_i+1}q_{\alpha_i+2}\dots q_{\alpha_i+t}$ をそれぞれ $\{|0\rangle \langle 0|, |1\rangle \langle 1|\}$ で観測し,
観測値に含まれる1の個数を w_i とする ($\alpha_i = i(m+2t) - 2t$)
- 2 $w_{i-1} = w_i$ ならば, S_i を抜き出し, $B_i = S_i$ とする.
 $w_{i-1} < w_i$ ならば, B_i を消失シンボルにする.
- 3 $B_1 B_2 \dots B_n$ に $\text{CSS}(\mathcal{B}(C_1), \mathcal{B}(C_2))$ の消失訂正法を適用する

注意

0 を $\{|0\rangle \langle 0|, |1\rangle \langle 1|\}$ で観測すると確率1で0
1 を $\{|0\rangle \langle 0|, |1\rangle \langle 1|\}$ で観測すると確率1で1

まとめ

古典符号の知識でほぼ理解できる

「量子 RS 符号に基づく量子削除訂正符号」
を紹介した

補遺

- 「量子 RS 符号に基づく量子削除訂正符号」は挿入誤りも訂正可能
- [MH2022] も古典符号の知識から理解しやすい
- [MH2022] は挿入+削除の復号的な誤りも訂正可能

[MH2022] R. Matsumoto, and M. Hagiwara, Constructions of ℓ -Adic t -Deletion-Correcting Quantum Codes, IEICE Trans. Fundamentals, Vol.E105-A, No.3, pp.571-575, March 2022.